

水色の天使 〜 ちょっとドライな天使のお話シトズ〜

「金色の封筒」

青年は亡くなった母親の枕元でしくしくと泣いていました。
自分が伝染病をうつしてしまったことの後悔が止みません。
青年は小さい時から母親と二人暮らしで、この春から社会人として仕事を始め
ようやく母親に少し楽をさせてやれる、恩返しができると思っていた矢先のことでした。
青年は自分が母親を死なせてしまったと涙が止まりません。

このまま一生後悔し続けるだろうと思った時、
目の前がパッと明るくなり、水色の天使が降り立ったのでした。

天使は青年にとっても変わった形をしたメガネを渡しました。

青年はそのメガネをかけてみると・・・

母親の胸元に今まで無かった金色の封筒が現れたのでした。

その封筒の中身を開けて見ると、母親の生まれてから今日までのことが
書き綴られていました。

青年「えっ！これは？」

天使「お母様が生まれる前に書いた今回の人生計画書ですよ。

ほぼ計画書通り完了したようですね」

青年は最後のページをじっくりと読んで驚きました。

死後に枕元で息子が泣き、水色の天使に会って金色の封筒を開けることまで書いてある。

青年「これも計画通りだったんだ」

天使「そうです、あなたのせいでは無いのですよ」

青年から顔色が戻ってきました。そして青年はふと自分の胸元にも金色の封筒が見えるこ
とに気が付き思わず開けてみました。ざっと目を通して驚きました。

今までの人生で起こったことがその通りに書き綴られていたのです。

天使「そうなのです。みんな生まれる前に計画書を書いてこの金色の封筒に入れて
持ち歩いているのです。そして計画書の通りに生きているのです。

せっかくなので最後までお読みになりませんか？」

青年は目を閉じて静かに考えて、今日以降のページは読まずに封筒を閉じました。

天使「読まないのですね。それは賢明です。読んでしまうと先ほど以上に

苦しい人生になったことでしょう。」と言いながら空に消えていきました。



お地蔵さん だよ

Vol.180
2020年5月

ソニックジャパン 金沢支社 支社長
鳥越介順 (とりごえ かいじゆん)

コロナの影響で
いろいろ大変なことと思います。
何とか乗り切りましょう!

お別れのこぼ

ステイホームの最中に 妻が「コロナ感染で
急変してなくなる時は 家族とお別れできないみたい。
私もいつ感染するか分からないから 今のうちに
お別れのこぼを言っておくわ」と。そして
「今まで本当にありがとう。幸せな人生でした。
いろいろなことを……………」
それを聞いた私も「ぼ、ぼ…ぼくも今までありがとう…」
少ししみみりとした不思議なひとときでした。
お別れのこぼは早めに言っておくべしであわじ

大丈夫 心配するな なんかなる



今日まで
数々の困難や「こぼ」に
出会ってきた。
でも必ず何とかあった。
今日の前にある困難も
これから現れる問題も
必ず何とかなる。
何とかなると知ったけれど
心が軽くなる。

